

20/Nov.2012

09:30 ホテルにて朝食。一階中庭の周辺が朝食場所になっている。ヨーロッパスタイルの朝食。ただし、焼き飯 (Baked rice) もあり。最後の客、料理が余っている、いくらでもどうぞとのこと。

11:20 タクシーで行動することとする。

ワットシェンクワン (仏陀パーク)、タイラオス友好橋、メコン川周辺、国境にて duty free ショップの順で見物することとする。

18:00 ホテル近くの中華飯屋で飲茶で夕食。

18:50 イタリアン風レストランでビール。



←ホテル中庭で朝食。良好な環境です。



←借り上げタクシーで出発。工事中で長い渋滞です。大変な土ほこりが舞い上がります。町中で再々見かけるいすずのバス。日本国民からの贈り物。低床式の低排出ガス。

仏陀パークに着きました。この不思議な施設を紹介しましょう

正式には「ワットシェンクワン」と称される寺院である。多くの仏像が無造作に置かれているところから「仏陀パーク」と呼ばれる。仏教の像だけでなくヒンズーの神々と思われるものや得体の知れない像などが何の脈絡も無く置かれている。中には竜や蛇をイメージしたもの、エロチックなもの、滑稽なものなどが多数ある。全て鉄筋でかたどられたコンクリート製である。

ラオスで成功したルアンブー・ブナルア・スラリット師が建立したものと言う。師は革命政府に追われタイへ亡命し、国境の町ノンカイでこれと同じようなものを建てていると言われる。

功成り、名を遂げた者が故郷に錦を飾った記念碑かもしれない。我が国で言えば、地方出身者が事業家として成功し、巨額を投じて故郷に巨大な五重の塔や観音像を建立する例がバブルの時代に各地で見られたが、その手のもと考えれば、許容出来る。それが今日、不可思議なものとして観光資源になっていると考えるべきか・・・ゲテものである (失礼かな?)。巨大なゲテものブッダテーマパークとしておこう。それにしても、具現の像に形作るこのイメージの豊かさには喝さいしておこう。



←緑の芝、巨木に覆われた気持ちのいい公園を抜けて園内にはいると、いきなり異様な巨大な建造物が目に入る。



←頂上に飾り物を持った、かぼちゃ型の巨大なコンクリートの物体。

↓巨大な口を持っている。中に入り頂上まで登れる。



↓内部には仏像が置かれ、何かが表現されているのでしょ。窓があり、光が差し込みます。



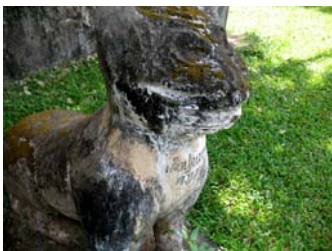
↓周辺の飾り物





←頂上まで登れます。園内が眺望できるとのこと。外国人ツーリストの姿がある。

↓次々と奇怪なものをお目にかけます。





←これを建立した人物像なのか？
 新しい名盤に次のごとくある。
 THAKRAL 一族がスポンサーになって、この施設
 が改新された。16万円である。2005・2月

メコン川の船渡し場。
 1994年、タイ・ラオス間を結ぶ友好橋が出来るまで、両国間の人・物の流通は渡し船でした。
 今日でも僅かに使われています。内部施設の写真を撮ろうとすると、オフィサーが厳しく制止しまし
 ました。国境施設です。小さなチューティフリーの店がありました。対岸がタイです。少量の貨物輸送もあ
 るようです。人は80円で対岸まで行けます。勿論出国手続きが必要。



↓友好橋を見物する。何故か入場チケットが必要。



←電飾の名盤あり。オーストラリア国民から
 ラオス民主主義人民共和国ならびにタイ国
 の国民へのこの贈り物は知事閣下、ラオス大
 統領、タイ国王が列席のもと、オーストラ
 リア首相より贈呈された。1994年4月8
 日と書かれている。設計施工はオーストラ
 リアの建設会社、建設費4奥2千万オースラ
 リア\$。設計概要も書かれている。



↑ ↓ 乗用車、大型トラックがひっきりなしに通行する。タイ方面を望む。メコン川の真ん中が国境線。橋梁は歩道があり、中央には将来を見越して鉄道線路が敷設されている。現在でも旅客列車がタイのノンカイから国境を少し超えてラオス側まで入り込んで運行されている。橋下の普通道路にはヤギの親子が...



↓ 陸路でのタイへの国境超えには普通ここで出国審査を受けて、専用のバスで友好橋を渡ってタイ・ノンカイに入り、入国審査です。出入国は容易であるが、混雑には閉口する。チューティフリーも充実である。



↓ ラオス・ビエンチャン最後の夜である。少し洒落たイタリアンレストランでビールを飲む。

